

巻頭の辞

ビジネス日本語研究会
代表幹事 奥田純子

ビジネス日本語は、60年代に始まる日本の高度経済成長とともに歩みを始めました。黎明期には、外資系企業の管理職や外交官たちのニーズを満たす日本語研修が行われていました。現在では、外資系ばかりでなく日本企業においても、内容や方法を時代の要請に適応させながら、ホワイトカラーの外国人社員への日本語研修が実施されています。

胎動から半世紀以上を経た今日では、日本の国際的、政治的、経済的、人口動態的な課題を反映して、企業のグローバル展開、国際人材獲得戦略を目指した、高度外国人財の招聘や採用、それに伴うビジネス日本語の教育・研修も行われるようになりました。

また、高等教育機関や日本語教育機関においては、これから仕事に就こうとする留学生のために、人材育成のみならず、人間形成の観点からも教育実践が行われるようになり、新たなビジネス日本語教育の分野が確立されようとしています。

一方、外国人社員とともに働く日本人社員にとっても、日本語による異文化コミュニケーションのスキルが必要であるという認識が生まれ、少しずつではありますが、日本人社員のためのビジネス日本語教育・研究が行われるようになってきました。

以上のように、ビジネス日本語教育は、とりわけここ十年で質量ともに爆発的に拡大しました。けれども、教育実践を記述し、共有したり、研究成果を公開したりする機会は十分に提供されてきませんでした。本ジャーナルが、ビジネス日本語教育の知の蓄積と未来を見据えた新機軸の教育実践の創造と研究に寄与できることを期待しています。

創刊号の刊行にあたり、ご協力くださった会員みなさまに心よりお礼を申し上げ、ビジネス日本語教育・研究のさらなる発展のために協働いただけますことを切にお願い申し上げます。